

# Graduation in America - アメリカの卒業式 -



クリスティー・マツカワ  
Christie Matsukawa  
アメリカ出身

皆さん、こんにちは！春ですね。日本では、春は生徒や学生たちが、学校を卒業したり、進級したり、社会人は職場を変わったりと、多くの変化がある季節ですね。

日本の卒業式では、生徒たちは制服を着て、卒業証書を受け取り、長年の友人たちに涙を流しながら、お別れを告げるという感じですね。

アメリカでは、卒業式の雰囲気は全く違います。

まず、卒業式は6月に行われます。春はただ楽しい春休みがあるといった感じです。

また、アメリカでは、卒業式用のガウンとキャップを身に着けます。この格好はまるでハリリー・ポッターのような感じです。式場では、名字のアルファベット順に並んで座り、挨拶がある人だけ前の方に座ります。いくつかのあいさつが終わると、式の最後には、

キャップについているフサを右から左に動かします。これが、卒業し、これからそれぞれの人生を進んでいくことを意味します。

卒業式が終わると、花束やレイのような贈り物を親しい人たちからもらい、この素晴らしい機会に友達にお別れとお祝いの言葉を伝えます。そして、ちょっと悲しくほほ笑んで会場を去り、過去に別れを告げ、未来に挨拶するのです。

さて、今年、日本で、そして松浦で卒業した皆さん、おめでとうございます。皆さんの幸運を祈ってます！



## 図書館の おすすめ本

市立図書館  
☎ 0956-72-4677

松浦市ホームページで  
「松浦市立図書館」を検索



### 『21世紀の資本』

トマ・ピケティ / 著  
山形浩生・守岡 桜・森本正史 / 訳  
みすず書房

資本の蓄積と分配は何によって決定づけられているのか？所得の分配と経済成長は、今後どうなるのか？重要なこれらの諸問題を18世紀にまでさかのぼる詳細なデータと、明晰な理論によって解き明かす。格差についての議論に大変革をもたらしつつある、世界的ベストセラーです。



### 『たまごさんがころんだ!』

戸田和代 / 作 西巻かな / 絵  
佼成出版社

料理のへたなおかあさんに黒こげ目玉焼きにされそうになった、たまごたち。だるまさんから教わった“おまじない”で、理想のたまご料理になるための冒険に出かけます。

### ◆◆◆あかちゃん・子どものお気に入り◆◆◆

このコーナーでは図書館に来てくれたあかちゃんや子どもたちのお気に入りの一冊を紹介します



志佐町池成免の小出琉生くん (7歳) と好生ちゃん (5歳)

#### 【お気に入りの本】

『ウルトラリックメンひとりでおでかけだいぼうけん』

きむらゆういち / さく にしうちとしお / え 小学館 円谷プロ

『いいおかお』

さえぐさひろこ / 文 アリス館

#### 【お母さんからひとこと】

平成 25 年 3 月に北海道から引っ越してきました。子どもたちと遊べる場所や楽しめる場所が分からなくて、図書館へ足を運ぶようになりました。

琉生が小学校に来る「きらきら号」を利用するようになり、私と好生も一緒に本を借り、自宅でゆっくり読むようになりました。

いろいろな絵や文章にふれ、心豊かな想像力あふれる楽しい子になってほしいです。写真を撮っていただいたのが、琉生の Birthday だったので、良い思い出になりました。

※図書館ではお母さんとあかちゃんの来館もお待ちしています！

# 東日本大震災復興支援（石巻より）①

松浦市職員 高松 亮

先月の3月11日で東日本大震災から4年が経過しました。石巻市ではこの震災により直接死3,275名、関連死266名、行方不明者430名（3月現在石巻市ホームページより）が犠牲となり、依然として仮設住宅での生活を余儀なくされている人が2万人ほどいらっしゃいます。

ここで石巻市について紹介します。宮城県仙台市から車で1時間ほどの距離にあり、人口約16万人、太平洋に面し水産業が盛んで、「笹かまぼこ」が特産品として有名です。また、養殖カキ発祥の地でもあります。海に面しており水産業が盛んという点など松浦市と共通点も多く、都市計画や産業インフラなど多くの面で参考になることも多いと思います。

震災から4年が経過し、さまざまな面で復興が進められています。市は「災害に強いまちづくり」をコンセプトに、平成26～29年までを「再生期」と位置づけ、防波堤建設、主要道路の整備などを進めており、市内各所で土木工事が見受けられます。公共交通の面でも今年6月からはJR仙台～石巻が完全復旧予定です。

このように石巻市では日々復興が進んでいます。人材や資材もまだまだ不足しているのが実情です。このような中で石巻市役所には全国各地から復興支援業務のために職員が派遣されて



▲日和山から見た石巻市街地

おり、その中の一人として私は財務部市民税課の業務にあたっています。松浦市と比べると石巻市は人口が多く、業務も多様で同じようにはいきませんが、一日でも早い復興を成し遂げられるように全力を尽くしたいと思っています。業務を通じ、石巻市の皆さんと接することで私を感じたことは、松浦市同様人柄の良さです。震災により家族、財産をなくされた人と話す機会もありますが、前向きで明るい人が多いと感じています。石巻市は東北の中でも冬は比較的雪が少なく過ごしやすい、また、人も温かく、おいしい食べ物もたくさんあります。松浦の皆さんも是非一度石巻の地を訪問し、復興状況の確認や、特産品を堪能してみたいかがでしょうか。

# わたしたちの郷土

— 108 巻 —

## 中世の松浦（74） 鷹島海底遺跡

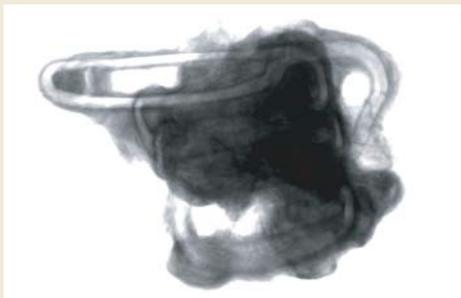
2月18日・19日、壱岐市にある長崎県埋蔵文化財センターで、鷹島海底遺跡出土遺物の中でも錆に覆われている鉄製品87点の透過X線調査を行いました。

透過X線調査は、原理的には医療用のレントゲン撮影と同様で、X線を資料に照射し、X線の透過・吸収の程度をX線カメラなどで検出することによって、その内部の様子を明らかにするものです。錆の内部に残存する金属部分や鉄錆に埋もれた金・銀象嵌、木製品や乾漆製品の金属、絵画下絵の顔料などの検出・観察に有用です。現在、文化財の自然科学的調査には不可欠な方法の一つとなっています。

前回の調査では、透過X線とX線CT調査によって火打ち金具が発見されましたが、今回の調査でも帯金具である帯鉤が連結した状態で複数確認できた例、鉄剣とみられるもの、槍とみられるものなどが新たに発見されました。

帯鉤とは革帯（ベルト）の留め金具（バックル）のことです。現在、よく用いる留め針が動くものとは異なります。帯鉤には動く留め針はなく、そのかわりに鉤状に鋭く曲がった先端が帯を留める用をはたします。

詳細な調査を行う必要が出てきた鉄製品につきましては、福岡県太宰府市の九州国立博物館でX線CT調査を行う予定です。



▲ 帯鉤の透過X線画像